

「お腹いっぱい」のありがたさ  
僕が祖父の家でご飯を食べ、満腹になった  
時、祖父が「それはよかった。おじいちゃん  
が子どもの頃はこんなおいしい物を食べて満  
腹になったことなんかなかったからな。」と  
笑顔で言った。僕は何か申しわけなく思った  
僕の祖父は戦争を経験している。とても幼  
い頃だった。がその時のことは鮮明に覚えてい  
るらしい。そこで、僕はそのころはどのよう  
な物を食べていたのか気になり聞くことにし  
た。  
すると、その時食べていたものは、いなご  
や、たにし、食用がえる、ざりがに、さつま  
いも、すいとんなどを食べていたらしい。僕  
はそれを聞いた時とても驚いた。十分おいし  
かったと言っていたがとても信じられなかつ  
た。僕は、少量の米や芋を食べていると思っ  
ていたが、その想像をはるかに超えた。だが  
その後「戦時中の芋は今と違って甘いどころ  
か味すらしない。パサパサの芋。とりあえず腹

に溜まるだけ。』と言った。戦争は戦っている兵士は命がけ、小さな子どもは食事自体も命をかけていると感じた。これを知った後、平和に食事ができる時代に産まれて自分達は本当に幸せなのだと思った。僕はこれが世界中でできる時代がいつかきてほしいと願っている。今日日本はとても食糧自給率が低いと社会の授業で習った。日本が戦争をしなくても他の国が戦争をしてしまった場合、日本は多大な影響を受ける。戦争をしてはいけない理由は「人権を無視したことでたくさんの方が辛い死に方をするから。』だけではない。戦争をしたら、若く未来のある男性が軍として使われやりたいことができず殺し合いをするということが起こる。また、小さな子どもが十分な食事をすることができず、栄養失調で亡くなるという起こることも起こる。これらは戦争をしななければ起こらないことだ。戦争を起こさないことが若い人たちに課せられた課題なのだ。

また、日本の食糧自給率を上げること  
も僕らの課題だ。スーパーに行く  
と外国産の物はばかりだ。生きる  
うえで「食事」というのは一  
生ついてくる。戦争をして死ぬ  
のは僕は嫌だ。パサパサの芋  
やかえるは食べたくない。これ  
は僕だけではないはずだ。日本  
でできた材料だけでおいしい  
ハンバーグやパスタが食べた  
い。これらを実現することが僕  
らの課題だ。戦争をしないこと  
はあたりまえ。そのあたりまえ  
が出来ていないのが今の世界の  
現状だ。戦争をしたら、お腹が  
すくし、人が死ぬし、良い事な  
ど何もない。どのようないい  
事があるか。太平洋戦争中の日  
本は特攻という若い男性が飛行  
機でアメリカの船につっこむと  
いう作戦があった。これは若い  
人が「お国のため」と思い自ら  
志願したらしい。このような命  
がけで国を守る姿は見習わな  
ければならない。だが、これ  
を二度と起こしてはいけない  
といふことも学ぶことができる。  
己の命と引き換

